



学生の設計課題成果物の展示

ホテル竹島建て替えを核とした観光レクリエーション拠点のあり方

<概要>

2019 年度の建築・都市システム学課程 3 年生後期に開講した建築設計演習Ⅴの設計課題、「ホテル竹島建て替えを核とした観光レクリエーション拠点のあり方」※の優秀作品 4 点を展示しました。その際、アンケートを実施し、蒲郡市の市長をはじめ、数名からコメントをいただきました。

※ 注意点：

あくまで大学の授業のために、仮の話で設定した課題です。ホテル竹島に建替えの話はありません。

<詳細>

建築・都市システム学課程 3 年次後期に開講する建築設計演習Ⅴの後期課題（担当：浅野純一郎，辛島一樹）の設計課題は、主として東三河地域の市町村の実際の敷地を対象地として選定し、学生に課題を与えています。

2019 年度は、蒲郡市を対象に、今後の臨海地域の整備方針を考える上で非常に重要な意味を持つ竹島及びその周辺地域に着目し、ホテル竹島建て替えを核とした観光レクリエーション拠点のあり方を、設計課題として課しました。

（課題設定の背景、課題内容の詳細は、資料の 9 ページ以降をご覧ください。）

今回、竹島周辺を題材とした課題ということで、蒲郡市観光交流センター（ナビテラス）での展示に至りました。その際、来場者からアンケート形式でご意見をいただきました。

- 展示期間：8 月 1 日（土）～8 月 10 日（月・祝）
- 展示物：優秀作品 4 点の図面と模型、敷地模型

※次ページ以降に、展示の様子の写真と展示した作品、アンケートの回答、課題の詳細を掲載しています。



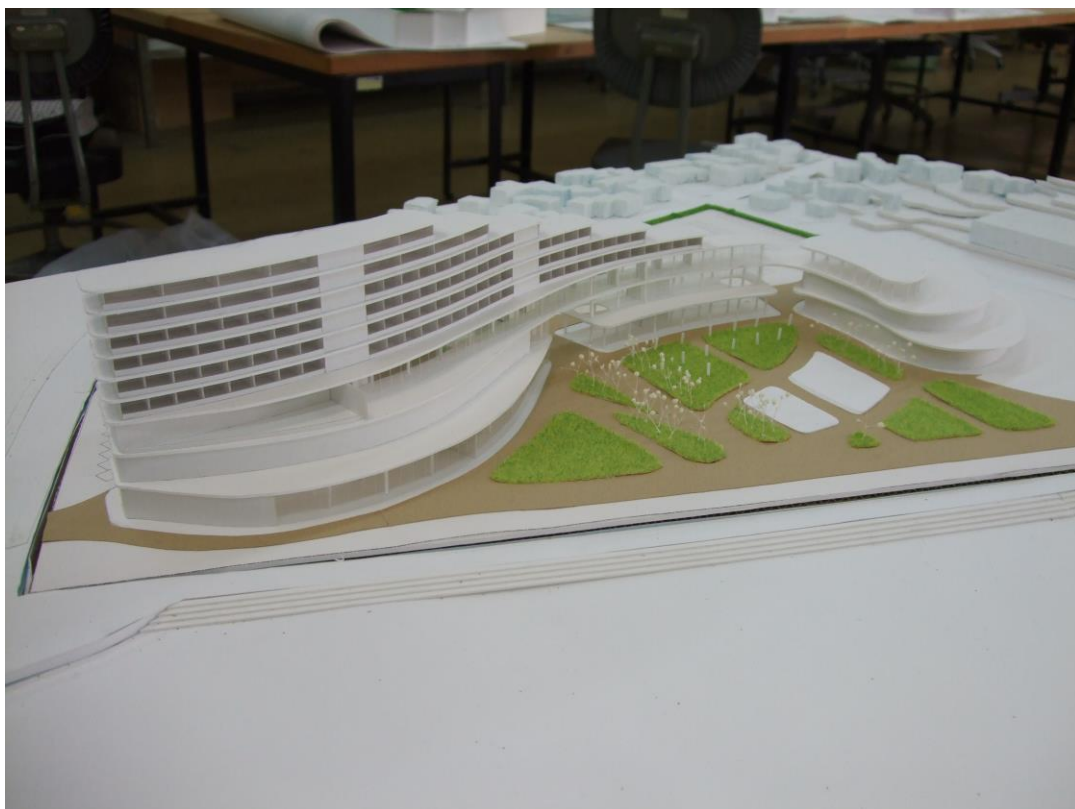
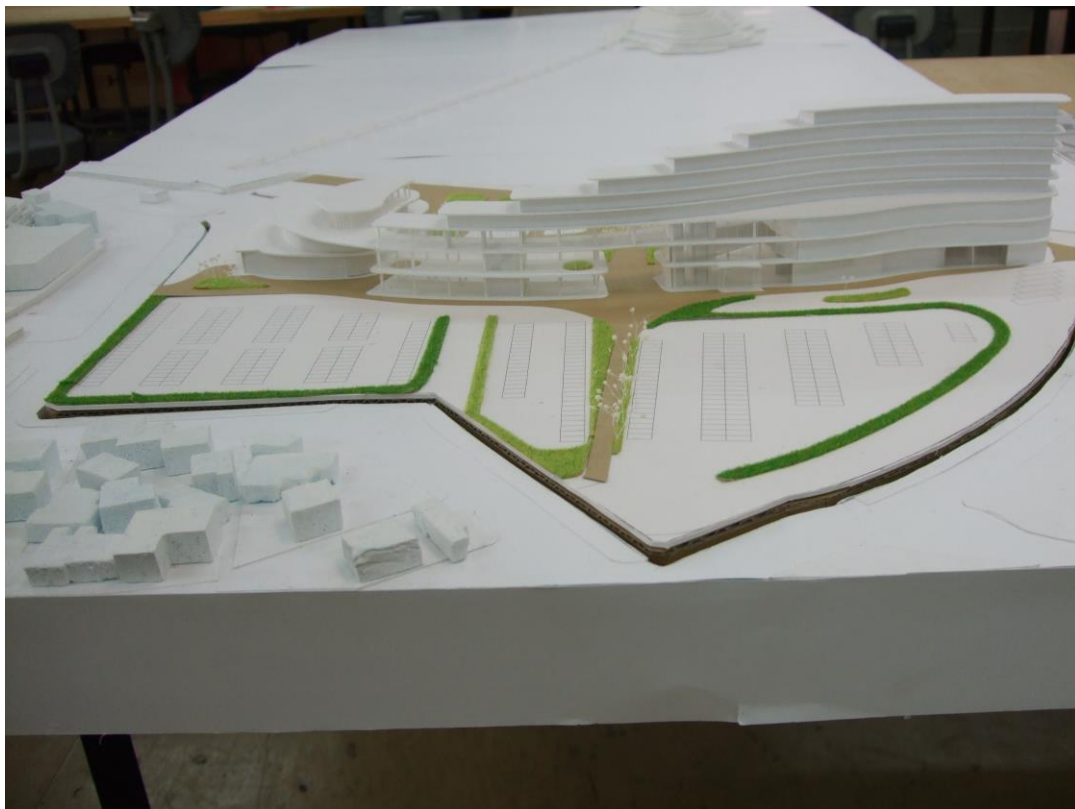
写真 展示の様子1



写真 展示の様子2

作品1：軸と動線

メンバー：今井魁人，来田晶子，播直昌



作品2：たけはこ

メンバー：佐藤玄太，月岡美嶺，原田健太郎



作品3：海臨ホテル

メンバー：秋山千記, 菅智子, 山村優太



作品4：蒲郡に溶けるホテル 地域と一体になるホテル

メンバー：佐橋寿理，田中甫，山本悠衣



アンケートで得られた意見

こちらの用紙にご意見・ご感想など、自由にご記入ください。

夢が小さくみえた
蒲郡を題材にしていたいて
ありがとうございました。
個人的には③が好み。丘陵が Good

※よろしければ、以下の情報をお教えてください。

年代： 30 年代

性別： ☐ 男性

☒ 女性

こちらの用紙にご意見・ご感想など、自由にご記入ください。

どのプランも 竹島を中心とするエリアの奥行きを最大限に生かして
いて感心しました。
それぞれのコンセプトを読ませて頂き、模型だけで判断
してはいけない良さを感じました。
1つ気になったのが、今後起きる可能性が高い大地震による
津波を想定して造りになっていないプランがあったので、
ホテル、水族館共 2F以上で1Fは④という設定が
あっても良かったのではーと思いました。

※よろしければ、以下の情報をお教えてください。

年代： 50 年代

性別： ☐ 男性

☒ 女性

こちらの用紙にご意見・ご感想など、自由にご記入ください。

豊橋技術科学大学 建築 都市システム 部中
12月

そのほかのコンセプト、デザインを興味深く拝見致した。
湖のニールである町の景観に最大限に引き立て
水族館、飲食、グランドホテル、賑わい、まみ、100
海へ語り、素晴らしいデザインばかりでした。

これらの湖、未来の湖に生かす来、ります。

今後さらに研究を深めていきたいと思います。

いろいろ、素晴らしい、まちづくりに貢献できることを
期待しています。

※よろしければ、以下の情報をお教えてください。

年代： 40 年代

性別： ☒ 男性 ☐ 女性

ありがとうございました。

湖都市長 鈴木寿明

1.課題の背景と目的

1-1. 蒲郡市竹島周辺のウォーターフロントとしての価値再生

蒲郡市は人口 8 万程度の地方都市であり、東三河地域の一部として生活圏、文化圏を形成してきた。名古屋からもおおむね 50km 圏内に位置しており、東三河だけでなく名古屋とのつながりも近年強まりつつある。鉄道はもちろん高速道路の IC も近く、近年 23 号バイパスの整備も進み、周辺からのアクセス性も高い都市である。

古くから漁港が開け発展してきたこと、4つの温泉が臨海地域に位置していることから、臨海地域が発達した都市である。三河湾国定公園にも指定され、マリンレジャー施設やテーマパークも立地している。

以上のような背景もあり、蒲郡市は県内屈指の観光地でもある。特に、竹島及びその周辺は、蒲郡市のシンボルともいえるエリアである。明治期から全国的知名度を誇っており、国の天然記念物に指定されて、島の中央部に日本七弁財天のひとつである八百富神社がある景勝地「竹島」を有する。また、大正～昭和初期に文人達が多数訪ねた場所であり、栈橋で繋がる橋の袂には、彼らが多く利用した料理旅館「常磐館」の跡地があり、現在は「海辺の文学記念館」として利用され、その足跡を残している。また、竹島に隣接する、現在も愛知県を代表する歴史的建築物であり、現役の宿泊施設「蒲郡クラシックホテル」として営業する「旧蒲郡ホテル」の建物は、城郭風の外観にアールデコ様式の内装と独特の建築である。

蒲郡市が公表している都市計画マスタープラン内では竹島及びその周辺地域は観光レクリエーション拠点と位置づけられ、他の拠点も含めて広域観光の促進が図られている。加えて、もう少し広い視点では、竹島を含む臨海地域（ウォーターフロント）の整備方針として、都市機能および都市環境の両面できわめて重要な空間と位置づけ、レクリエーション・スポーツ・居住・観光などの機能の配置整備及びアメニティにあふれた空間整備を推進すると計画している。

しかし、竹島及びその周辺の現在の土地利用状況を鑑みると、上述した魅力的なコンテンツは有するものの、それぞれの一体感が薄く、魅力を最大限に生かした、効果的な空間構成とは言い難い。ホテル竹島は 1967 年開業と年数が経過し、建て替え時期に当たる。近年のインバウンド効果を見据えた高所得者向けラグジュアリーホテルの需要の増加といった社会背景への対応も必要とされている。また、中央に広大な駐車場が立地していることも魅力の低下に拍車をかけている。そのため、より効果的な土地利用を促し、観光面の基礎的機能である宿泊機能の強化や地域の魅力を最大限に生かしたサービス機能の追加など、効果的な空間構成の計画が必要と考えられる。

そこで本課題では、蒲郡市の今後の臨海地域の整備方針を考える上で非常に重要な意味を持つ竹島及びその周辺地域に着目し、ここでの竹島ホテル建て替えを核とした観光レクリエーション拠点のあり方を考えてみたい。

その際、今の地方都市における財政事情を直視すると同時に、対象地区の持つ魅力・課題を把握し、魅力を生かし課題を改善する計画、ウォーターフロントとしての景観のあり方と周辺との調和を意識して設計・計画することが重要である。

参考資料:蒲郡市、蒲郡市都市計画マスタープラン 部分改定、平成 27 年

1-2. 地方都市における都市デザイン

●地方都市における公共施設整備の実際

人口減少・経済低成長下社会にあって、地方都市ではおしなべて市の財政が逼迫しており、蒲郡市もこの例に漏れない。こうした背景のもと、各自治体では、自身の財政規模・需要にあった「身の丈に合った施設整備」を重要視しており、規模ではなく、質の高いデザインが今こそ求められている。そこで本課題では、課題の示す建築、建築条件の沿った設計とすること。

●様々な「縛り」がデザインを生む

敷地の特性や、建築条件・各種制限等「縛り」も多い。こうした制約下におけるデザイン、つまり「縛り」が与えるデザイン性を考える。「縛り」が固有の景観や場所性を生むことを理解すること。

2. 設計課題

2-1. 課題内容

- (1) 竹島周辺の敷地を対象として、該当地区の魅力向上のための観光関連施設を設計すること。対象敷地面積は約 53,000 m² (図 1, 2 参照)。以下の計画方針に従い、各建物を計画すること。

【計画方針:ホテル竹島の建て替えを核とした観光レクリエーション拠点の形成】

本計画では、蒲郡のシンボルである竹島を中心とした、竹島周辺のウォーターフロントの魅力向上のため、ホテル竹島を建て替えることで新たに宿泊施設を計画し宿泊機能の強化を図る。それに合わせ、水族館等の既存の観光関連施設の建て替えも含み、観光レクリエーション拠点として一体的な空間の提案を目的とする。そのためにも、敷地が持つ海辺の景観を楽しめる、提案する建物と連続性をもつ公園整備も提案する。

①宿泊施設:

近年のホテル建設の動向及び竹島の立地特性を踏まえ、観光での利用を促す宿泊施設を計画すること。コンセプト、ターゲット層を検討する際、既存の蒲郡クラシックホテルの特徴を理解した上で、それらとは棲み分けを図るよう計画すること。また、それらと空間としての一体感、また景観としての調和を考慮すること。

1. 配置計画は自由に設定可能とする。
2. 客室は 100 室程度とすること。複数の棟に分けて配置することも可能とする。コンセプト、ターゲット等に応じて和室・洋室、利用可能人数のバランスを考慮すること。(参考:ホテル竹島は 94 室/449 名)
3. 参考書や事例調査を通じて客室以外の必要な機能(フロント、ロビー、食事処、大浴場、売店、バックヤードなど)を計画すること。また、コンベンションルーム、挙式空間などを適宜計画すること。
4. 宿泊客の導線、運営側の導線を十分に考慮すること。
5. 高さは制限しないが、周辺との一体感を意識すること。
6. 外装デザイン:建物の外装デザイン(素材や色など)にも工夫を凝らすこと。その理由を示すこと。

②観光関連施設:

既存の水族館の建て替えを必須とし、それに加えて、他の既存の施設(竹島クラフトセンターや飲食店等)や新たに提案する機能を含む複合商業施設を計画すること。

1. 水族館:水族館を計画する場合、規模は現在の延べ床面積とほぼ同等とすること。小規模の水族館の事例を調べ、参考にすること。
2. 建物の規模:高さは制限しないが、周辺の施設とのバランスを意識すること。
3. 配置計画:①の宿泊施設や周辺施設との繋がりを意識すること。敷地が広大であるため、導線が途切れないよう十分注意すること。

③公園:

海岸沿いに親水空間を創出すること。竹島へのアプローチを意識すること。公園内に飲食機能を持つ施設を建築することも可能とする。その際、運営主体についてもアイデアを提案すること(P-PFI※について事例を調べること)。

※P-PFI は、飲食店、売店等の公園利用者の利便の向上に資する公募対象公園施設の設置と、当該施設から生ずる収益を活用してその周辺の園路、広場等の一般の公園利用者が利用できる特定公園施設の整備・改修等を一体的に行う者を、公募により選定する制度であり、都市公園に民間の優良な投資を誘導し、公園管理者の財政負担を軽減しつつ、都市公園の質の向上、公園利用者の利便の向上を図る新たな整備・管理手法である。

出典:国土交通省 HP 都市公園の質の向上に向けた Park-PFI 活用ガイドライン

④その他:

1. **駐車場:**配置計画は自由に設定可能とする。現在の規模と同様の 240 台以上を確保すること。地下の利用も可能とする。バス専用の駐車スペースも確保すること。

(2)その他、以下の各条件を考慮し満たすこと。

- ・ 対象地は形態制限除外地域、一部は近隣商業地域に指定されている。どちらも建蔽率 60%、容積率 200%を守る必要がある。そのため、敷地全体として建蔽率 60%、容積率 200%を守ること。
- ・ 周辺の観光関連施設との関係を十分に考慮すること。例えばラグーナテンボス、温泉施設、その他観光関連施設。
- ・ 敷地が広大であるため、各施設、公園への導線が途切れないよう十分注意すること

(3)進め方について

グループは 3 人編成を基本とする（一部 2 人）。誰がどの建物の設計を担当したのかが判るようにするのが望ましい。

2-2. 設計にあたって特に注意する点

- ・ 周辺の景観との調和を考慮すること。提案する建物のスケールを意識すること
- ・ 周辺施設との結びつきを重視し、新しい人流を生み出すとともに、空間の連続性を考慮すること
- ・ 本設計課題に関連する、対象地周辺の地域の課題を積極的に見だし、それを改善する合理的な設計と意外性のある新しいアイデアを盛り込むこと

3. 提出物

用紙サイズはA 1 版とし、グループで 8 枚程度にまとめることとする。

用紙の種類は自由であるが、プレゼンテーションに相応しいものを用いること。

- ①全体模型（1/300）：提案空間の現れ方、感じられ方を十分考えた上で提案を行うこと。
- ②全体配置図（1/500）：外部空間について詳細に描く。
- ③テーマ解説（全体のコンセプト、建物と公園の関係、竹島や蒲郡クラシックホテル等への導線計画等についてダイアグラム等を用いて説明する）
- ④提案の特徴を示す全体パース
- ⑤平面図（各階）、立面図（2 面以上）、断面図（1 面以上）、いずれもスケールは 1/200
- ⑥面積表

※注意事項

- ・ A1 用紙に図面を配置する際は密度とデザインを意識すること。例えば余白が多く密度の薄いレイアウトなどは避けること。
- ・ 最終成果発表では発表用パワーポイントデータを作成し、それを中心に説明すること。適宜、図面・模型を効果的に用いること。

4. その他

その他、細部については指導教員と相談しながら設計課題細部をつめて、課題製作を行うこと。

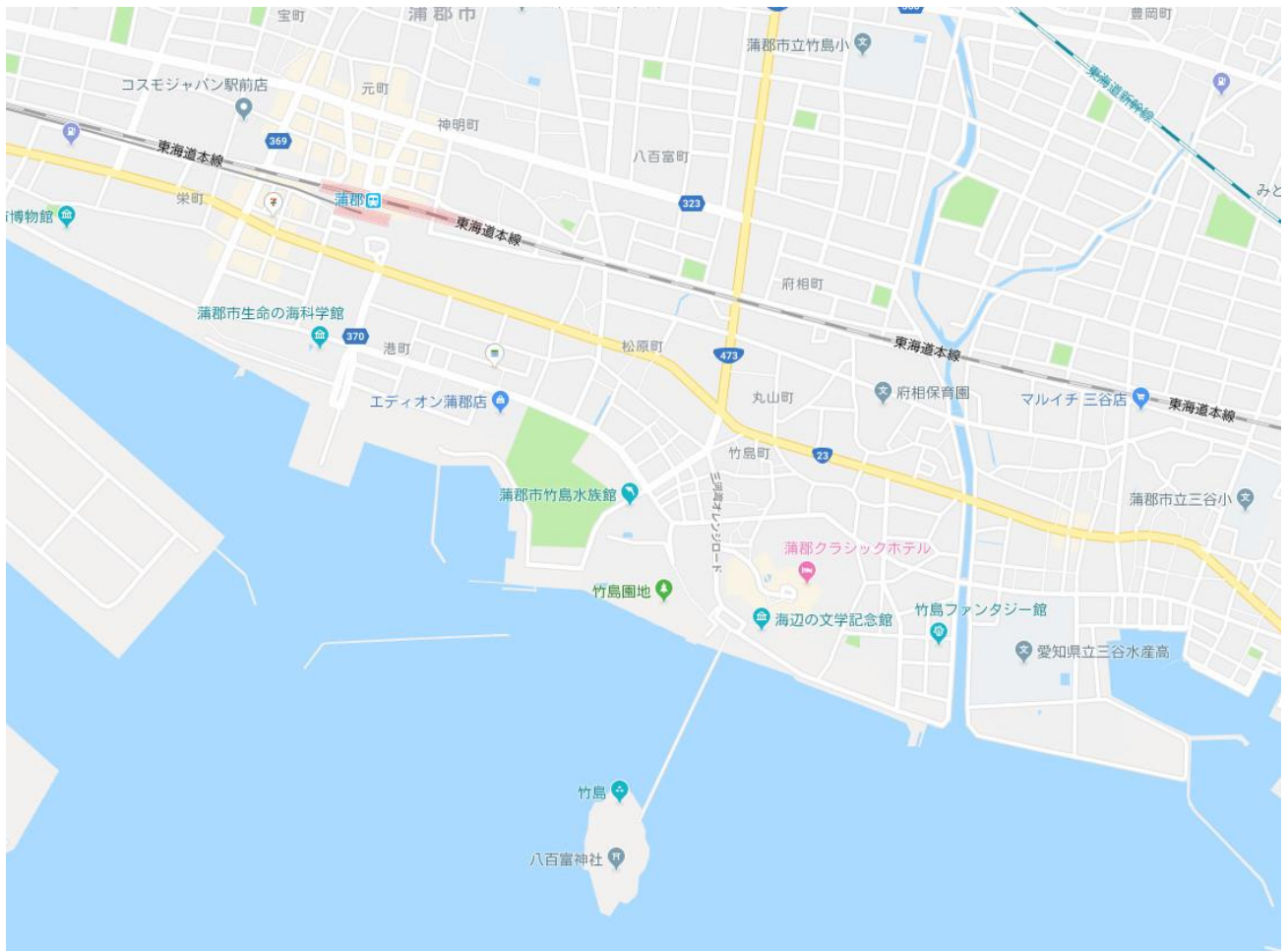


図1 対象敷地の位置



図2 対象敷地の範囲

5. スケジュール

■1月15日までに準備しておくこと

1. 蒲郡市役所において、課題エリアの2500分の1白図を購入しておくこと。
2. 現地視察を各自行うこと
3. 他の地方都市における観光レクリエーション拠点、小規模の水族館や体験・交流・学習がテーマとなった事例について、調べておくこと。
4. 1月15日は、現地視察の結果を踏まえ、全体構想についてパワーポイント形式（7分以内）で発表してもらうので、その準備。

■1月15日までに準備すること

1. 全体でシェアできるように、対象地とその周辺を含めた1:300の模型製作。模型作成エリアは対象地の周囲（もちろん竹島も）も含むこと。

2019年度建築設計演習Ⅴ 課題（浅野・辛島担当分） スケジュール表

日程	回数	内容
12月4日(水)	1	ガイダンス, チーム編成, 勉強会(宿泊施設等について)
12月11日(水)	2	勉強会(宿泊施設, 公園, 水族館, その他関連する機能を含む施設について)
12月18日(水)	3	現地(周辺)見学結果・全体計画の発表, 全体計画に関するエスキス
1月15日(水)	4	全体計画・個別施設に関するエスキス(宿泊施設, 公園, 提案する施設等について)
1月22日(水)	5	個別施設, 配置計画に関するエスキス
2月5日(水)	6	模型製作から図面制作
2月12日(水)	7	模型写真撮影, 図面作成
2月26日(水)	8	最終成果発表(講評会)